



町民文芸

只見短歌会

八月詠草

大塚栄一

指導

急死せし友への焼香焦れども道路閉ざされ未だに行けず

古川 英子

馬場 八智

逝きし友の歌稿に頭痛しとふ言葉に心も病みてはならぬ

吉津 政枝

大和路や最上の川の舟下り写真見詰めて過ぎゆき偲ぶ

渡部ゆき子

未だなき大洪水に孤立せし人ら救出のヘリコプター飛ぶ

五十嵐英子

外泊のわれ持て成すと姪つくるサラダの赤き南瓜をつぶす

目黒 富子

わが家を顧みるなく洪水に土嚢積みゆく消防団は

五十嵐夏美

ありありと情景見えくる師の歌に感激しつつ頁繰りゆく

渡部ヨリ子

松葉杖つく我を見てばあちゃんはケンケンパーと孫は言ひ来る

新国 洋子

老われを労りくるる人多く幸せなりと夫今日も言ふ

(出 詠 順)

只見俳句会

九月例会

目黒十一

指導

立葵停車短き無人駅

康 女

返信の無くとも送る茄子胡瓜

筆太の兜太の一句涼しかり
直ぐに出ぬ言葉をさがす猛暑かな

隆 堂

端切れ浴衣の盆の踊りの手やしなう

洋 子

白緋着てイケメンの眉太し

山のものばかりを活けて盆終る
秋ざくら高原の颯風まかせ

邦 夫

水害の跡の晴れ間や稲の花

一 穂

盂蘭盆や供物積まれて人の留守

洪水やいっきに道が川となり
洪水は山より流れ土砂くずれ

リウコ

被災せし位牌を拭い盆用意

敦 子

鳥渡る伊南川に吹く風一陣

名月や見せてよ国の近未来
十六夜や唐箕捨てらる処分場

笑 羊

昼顔や不通の鐵路横断す

礼

お社の鳥居をくぐるさやけさよ

川成となりたる稲田ゲリラ雨
墓流る七百ミリの夏出水

吉 児

ヤシの葉の茂る浜辺の終戦日

邦 男

戸締まりの鍵を確かむ釣忍

形代の数の少なき秋祭
カタカナのまじる一日や秋早

恒 夫